令和2年7月豪雨 ―心の記憶―

あまみら

災害当時、高台の家にいた私は、消防団の方から送られてくる濁流が流れる玖珠川の写真を見ながら何もできず、ただ雨が止むことを祈るしかできませんでした。雨が弱まり、温泉街を訪れてみると、私の店も店舗の壁が二面流されていましたが、そんなことよりも温泉街全体の被害の激しさに言葉を失いました。見慣れた景色が一変してしまいました。そんな状況でしたが、地域の皆さんと「天ヶ瀬温泉未来創造プロジェクト」という団体を立ち上げました。ニックネームは「あまみら」です。

あまみらでは、婦人会の皆さんと炊き出し支援を行ったり、地区商工会青年部の皆さんと防犯対策や竹灯りの取組みを実施したりしました。今は、惣菜の移動販売や住民の方の憩いの場所となる店舗を温泉街に創っています。僕たちが温泉街で活動していると、住民の方から「また賑やかな天ヶ瀬温泉街に戻ってほしいね」という声をよく聞きます。調べてみると「被災した温泉街」は国内にもあまり例がありません。災害というネガティブなニュースで知られてしまった天ヶ瀬温泉街ですが、「被災から復興した温泉街」として、また活気を取り戻せるように仲間や地域の皆さんと協力して、少しずつ前に進んでいきたいと思います。

被災から今まで、本当にたくさんのご支援をありがとうございました。災害を風化させないためにも、一番簡単な支援は現地に来ていただき、今の状況を周りの方に伝えていただくことだと思っています。これからも、できる範囲で、天ヶ瀬温泉街の復興の取組みに関わっていただければと思います。

天ヶ瀬温泉未来創造プロジェクト 代表
近藤真平さん

令和2年7月豪雨 ―支援の記憶―

私たちを元気づけてくれた温かい支援の数々。明るい希望を届けてくれて、ありがとうございました。

日田市に届いた支援金

■災害支援金
3,980万4,930円（11月18日現在）
■ふるさと納税（災害寄附）
2,187万9,867円（11月15日現在）
合計　6,168万4,797円

ボランティア受け入れ状況

■災害ボランティアセンター
2,460人（8月28日まで）
■中津江むらづくり役場
159人（8月20日まで）
合計　2,619人

助け合って乗り越える

滝のように降る雨が心配で、7月7日は外の様子を早朝からずっとうかがっていました。明るくなり始めると、自宅前を泥水が流れているのが見えたので「ただ事ではない」と近所を見て回ったところ、目の前で土砂崩れが発生しました。急いで自宅へ戻り振興局へ連絡を入れた直後に、2か所目の土砂崩れが起きて電柱がドミノ倒しのように倒壊したため、間もなく辺りが停電して電話やメールなどの通信も全く通じなくなりました。すぐに他の方と協力し、一人暮らしの高齢者宅に向かって避難を促しました。

まずは、近くの商店へ避難させてもらいました。若い方が足の不自由な高齢者をおぶって階段を上ってくれたり、声を掛け合って移動しました。けが人がいなかったことに安堵しましたが、家屋が土砂で押し流されたり、電柱が倒れて全半壊するお宅も出てしまいました。

翌日に市の指定避難所に移動しましたが、そこから約1か月間の長い避難所生活が始まりました。「いつ帰れるとかな」と不安を口にするものの、「でも今は頑張らなね」とお互いに励まし合いました。応援物資等を届けてくださった多くの方々の気持ちも本当に心強かったです。そして、やっと帰宅が決まったときは、長らく避難所として体育館を使わせていただいた津江小・中学校の子供たちや先生方に感謝の気持ちを伝えたいと、みんなで作ったメッセージ飾りを残させてもらいました。また、避難させてくださった商店の方をはじめ、避難生活を快適に送れるよう尽力してくださった市の職員さんや関係者の方々に感謝申し上げます。住家に被害を受けた方々が最も大変だったかと思いますが、これからも地区で力を合わせて、安心できる暮らしを守っていきたいと思います。

中津江村栃原1班 班長
安岡佳伸さん